

大会長挨拶

平成18年9月6、7、8日の3日間札幌にて日本放射線影響学会第49回大会を開催致します。札幌での開催は、昭和53年（1978年）度に第21回大会が札幌医科大学放射線医学講座の牟田信義教授の尽力により開催されて以来、四半世紀ぶりの開催になります。また、平成16年度は長崎、平成17年度は広島と2年連続して原爆被災地において本学会の大会が開催されておりますので、平成18年度大会をこゝ北の大地札幌にて開催致しますことは、本学会が原点に立ち戻る大変良い機会と考えております。

大会では口頭およびポスターによる一般演題発表の他、シンポジウムや市民公開講座、ランチョンセミナー等を企画しております。大会中日には懇親会も企画しております。詳細が決まり次第当ホームページにて公開致しますが、シンポジウム企画等につきましては、改めて皆様方のご協力を賜りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

北海道では現在泊原子力発電所1号機、2号機が稼動しておりまして、3号機の建設も予定されております。従いまして、放射線利用や放射線影響に関する道民の意識は高く、本大会開催は道民にとりまして大変意義深くかつ注目する学術集会になろうかと考えられます。会員の皆様方には是非、札幌にお出で頂き、数多くの研究発表をし、本大会を盛り上げて頂きたいと考えております。

季節的には夏も終わりかなり涼しい時期になりますが、快適な北海道を満喫して頂けると思っております。皆様方多数のご参加をお願い申し上げます。

北海道における本学会会員数は極めて少なく、そのため無理をお願いし、道内各大学や医学関連学部の先生方に実行委員になって頂きました。その様な状況から大変地味な大会にする予定でありますとともに、大会運営上いろいろ行き届かないところも出てくると思われませんが、その点は何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

日本放射線影響学会第49回大会

会長 桑原 幹典